科目名:保育研究法Ⅱ	担当者:杉山　実加	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	通年
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
オーストラリアでの学びをもとに、付属幼稚園の園児が英語を楽しむ活動をグループで展開する。実践を通して、海外での学びを保育に活用する力を養うとともに、実践に関するPDCAを通して実践力を育成する。実践にあたっては、国内で展開されている実践見学も事前に行い、グループの実践に生かすようにする。

授業の到達目標
1　英語による課外プログラムの企画・立案・準備において、これまでに身に付けた理論や発想を具体化することができる。
2　課外プログラムを通して実践力を身に付ける。
3　実践の省察を通してよりよい実践のために必要な技術・理論・視点に気付き、新しい企画を構想することができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
1　海外研修での学びを基盤に、国内の保育にも積極的に情報を集めること。
2　課外プログラムの実施に向けて、授業内以外にもグループで必要な準備や話し合いを行うこと。

評価方法
授業態度10%　実践50%　課題40%程度として総合的に評価します。

教科書	参考図書
その都度、授業の中で指示する	幼稚園教育要領・保育所保育指針・教育保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
これまでに身に付けてきた理論や技術を活用することを意識して、主体的に実践に取り組んでほしい。

01	オリエンテーション（授業の流れの説明）
02	課外プログラムの概要説明・事例検討Ⅰ
03	事例検討Ⅱ
04	課外プログラムの企画・準備（全体検討）
05	実践見学Ⅰ
06	実践見学Ⅱ
07	課外プログラムの企画・準備（グループ）
08	課外プログラムの企画・準備（グループ）
09	課外プログラムの実践①
10	課外プログラムの実践②
11	課外プログラムの実践③
12	課外プログラムの実践④
13	実践の整理と振り返りⅠ
14	実践の整理と振り返りⅡ
15	後期にむけた課外プログラム内容の検討（全体検討）
16	課外プログラムの準備（全体検討）
17	実践見学Ⅲ
18	実践見学Ⅳ
19	実践見学での学びの整理
20	課外プログラムの企画・準備（グループ）
21	課外プログラムの企画・準備（グループ）
22	課外プログラムの実践①
23	課外プログラムの実践①・振り返り
24	課外プログラムの実践②
25	課外プログラムの実践②・振り返り
26	課外プログラムの実践③
27	課外プログラムの実践③・振り返り
28	課外プログラムの実践④
29	課外プログラムの実践④・振り返り
30	授業全体のまとめ
31	なし

2019年度シラバス

科目名:障害児保育特論	担当者:戎　弘志	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法 　障害をもつ子どもの原因を学び、成因に関する基礎医学的知識を学ぶ。また、障害に伴う身体的特徴や生理学的特徴を学ぶ。医学的立場から障害を理解することにより個々の障害にあわせた有効な療育に適応できるようにする。さらに現場に即した療育理解を深め、障害児療育の実践を学んでいく。
授業の到達目標 　　障害児への早期療育の重要性を学び、早期療育の方法と実践ができるようになる。　　障害に関する病理学的知識を学び、障害児への対応に関する根拠を理解する。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 ① 施設ボランティアなど積極的に参加する。障害児施設イベントに参加する。② 障害児に関するマスコミ報道については、しっかりと見聞する。場合によっては授業にて討論する。
評価方法 　授業への参加態度20%、レポート20%、確認試験60%　｛出席｝出席日数、遅刻早退回数を反映する｛授業態度｝授業への積極性を評価する。他の学生の迷惑になる私語は禁止する。｛レポート｝障害児の療育プログラムについて、目的･方法･意義などのレポートを課す

教科書	参考図書
障害児療育　障害をもつ子どもの未来のために	新・社会福祉士養成講座(1)人体の構造と機能

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 障害児とできるだけ多く接する機会を提供する。学校に担当教員の緊急連絡先を登録する。授業終了後、オフィスアワーとして設定する

01	1ガイダンス・社会福祉における障害児及び障害者について
02	2人の成長・発達と老化　身体の成長・発達
03	3人の成長・水分と脱水、血液成分
04	4心臓と構造と循環、胎児循環
05	5腎臓と呼吸器の構造と機能
06	6消化器の構造と機能
07	7神経の構造と機能
08	8支持運動器官と感覚器等
09	9身体、知的、精神の3障害の違いと特徴
10	10障害の原因（1）
11	11障害の原因（2）
12	12自閉症スペクトラム
13	13自閉症スペクトラムとティーチプログラム
14	14不適切行動への療育
15	15障害児施設
16	16総まとめと確認テスト

2019年度シラバス

科目名:児童福祉特論	担当者:新沼　英明	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　子どもを取り巻く環境は大きく変化しつつあり、特に近年は子ども虐待問題や子どもの貧困問題などへの対応が我が国における喫緊の課題であると言える。その他にも子どもの権利侵害事案が多く顕在化している。そこで、子どもの健全育成を妨げる社会的・環境的因子について社会科学的観点から考察し、課題解決に向けた保育者の役割を見出すことを目的とする。

授業の到達目標
１　子どもの人権の本質について理解し、子どもの権利擁護の観点から、子どもを取り巻く様々な社会事象について考察することができる。２　自ら子どもを取り巻く様々な環境を多角的に分析し、それに対応する保育者の役割を見出すことができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　子どもをとりまく環境は、その保護者をとりまく社会経済状況の変化に大きな影響を受けます。普段から社会事象に関心を持つよう、新聞記事等には日常的に接してください。その上で、各回のテーマに即した資料を事前に提示しますので、それらについて事前に目を通すようにしてください。事後にあっては、学修したテーマの概要を簡単にノート等にまとめるようにしてください。

評価方法
課題の提出状況・受講状況50%、確認テスト50%を基準として総合的に評価します。

教科書	参考図書
なし（毎回プリントを配布します）	なし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
毎回レジュメを配布しますので、専用ファイル（B５版）を用意し、資料の整理に努めてください。また、講義の中で受講者の意見を求めますから、積極的に発言してください。

01	オリエンテーション、本講義の意義と目的
02	子どもの権利１（児童の権利条約）
03	子どもの権利２（児童福祉法、児童憲章）
04	現代の子どもを取り巻く環境と課題
05	母子保健の現状と課題
06	保育施策の現状と課題
07	地域の子ども家庭支援のための施策（放課後児童クラブ等）
08	社会的養護を必要とする子どもと自立支援
09	子どもと暴力１（児童虐待）
10	子どもと暴力２（ドメスティック・バイオレンス）
11	子どもと暴力３（施設内虐待）
12	子どもの貧困問題とひとり親家庭への支援
13	非行問題と児童の健全育成
14	海外の児童家庭福祉事情
15	まとめと確認テスト
16	

2019年度シラバス

科目名:教育行政特論	担当者:小栁　雅子	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
現代の教育システムにおいて教育行政は、いったいどのような役割を担っているのでしょうか。そもそも「行政」は何をするところなのか知っていますか。この授業では教育行政－保育行政の関係性も考えながら、教育を支える行政の役割について学習をして行きましょう。本授業は担当教員による講義と受講生のグループによる発表、および討議によって進行します。

授業の到達目標
①教育行政が我が国の教育においてどのような役割を担っているのかを正しく理解する。②自分自身の実習等実践経験を基に現代の教育・保育の課題を深く考察することができる。③②の課題に対する行政的支援の在り方について理解し、また自分自身で考えることができる。以上３点を本授業の到達目標とします。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
担当教員の講義に対する準備学修は必要ありません。ただし、事後学修として、授業内で学んだことを復習し、関連事項や教育に関わる最新情報に新聞やインターネット、本などを通じて触れるようにしてください。なお、グループ発表については、発表レジュメの作成や発表の練習などの準備学修が必要となります。

評価方法
①グループ発表の内容（100点）、②討議や授業への参加態度（10点×15回＝150点）および③最終レポート（100点）を総合評価します。うち60%（210点）を本授業の単位取得に要する最低点とします。

教科書 使用しません	参考図書 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、教育六法等

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
講義形式の授業もありますが、単に教員の話を聞くだけではなく、学んだことについて自分なりの疑問や意見を持つ事が大切です。なお、連絡等の必要性がある場合は、担当教員の研究室までお越しください。

01	授業オリエンテーション＋「行政」は何をしているところ？
02	現代社会と教育・保育①－現代の教育・保育システムとその特徴
03	現代社会と教育・保育②－これまでの教育行政の役割
04	我が国の教育行政システム①－中央教育行政
05	我が国の教育行政システム②－地方教育行政
06	我が国の教育行政システム③－教育行政と保育行政の関係性
07	諸外国における教育行政システム①－中央教育行政と地方教育行政の関係構造
08	諸外国における教育行政システム②－教育・保育の課題と行政の役割
09	具体的な教育政策を見てみよう①－日本（国・地方）
10	具体的な教育政策を見てみよう②－諸外国（国・地方）
11	変化する教育行政システム
12	教育行政の現代的役割と課題①-教育財政と学校経営
13	教育行政の現代的役割と課題②－教育者・保育者の専門性向上と行政
14	教育行政の現代的役割と課題③－子どもたちへの総合的な支援と行政
15	本授業のまとめ
16	なし

2019年度シラバス

科目名:教育方法特論	担当者:	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法 これまでに身に付けてきた幼児教育・保育方法と「子どもとは何か」という価値観（子ども観）を様々な角度から見つめ直すため、多様な幼児教育・保育の方法と子ども観を学ぶ。毎回の授業テーマに対する自分の考えをグループワークなどで深めたり、レポートにまとめる。
授業の到達目標 ①歴史的・文化的に多様な幼児教育・保育方法と子ども観を理解する。②自らの幼児教育・保育方法と子ども観が歴史的、文化的な文脈の中にあることを理解する。③多様な事例を学ぶことで、あらゆる問題について自らの意見を明確に持ち、解決できる能力を身に付ける。
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 日本の保育の歴史を身近に理解するため、自分の両親や祖父母の幼稚園、保育所での経験について聞いてみてください。諸外国の保育・就学前教育の情報も集めてください。
評価方法 授業への参加態度40%　毎回の小レポート30%　課題と取り組み態度30%

教科書	参考図書
特にありません	授業中に指示する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 欠席の場合、授業で開示する連絡先にメールで連絡すること。授業中にたくさん思考し、たくさん発言してください。

01	オリエンテーション　自分の幼児教育・保育方法と子ども観について
02	私たちの幼児教育・保育の源流　倉橋惣三と野口幽香
03	戦争と保育　戦争を経験した保育士のライフヒストリー
04	戦後の幼児教育・保育方法①
05	戦後の幼児教育・保育方法①
06	子ども中心主義の源流①　ルソー、ペスタロッチ
07	子ども中心主義の源流②　フレーベル、モンテッソーリ（1）
08	子ども中心主義の源流③　モンテッソーリ（2）
09	異文化の保育方法①　オランダ　レッジョ・エミリア
10	異文化の保育方法②　レッジョ・エミリア　スウェーデン　フィンランド
11	異文化の保育方法③　東アジア・東南アジア諸国
12	異文化の保育方法④　イスラーム諸国
13	異文化の保育方法⑤　カンボジア
14	今の幼児教育・保育方法を考える①
15	今の幼児教育・保育方法を考える②
16	なし

科目名:食環境論	担当者:岡田　瑞恵	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　私たち人間は生態系を構成する一員です。よって、環境から受ける影響と環境へ及ぼす影響の両面を考えて生活することは大切なことです。自然的環境、社会的環境の影響を受ける「食」を多面的に捉え、私たちの健康と安全を考えていくことを目的に、食と環境、食の情報および安全性、子どもと食環境の3つの視点から多面的に学びます。また、グループディスカッションを通して、導き出した考えを集約し結論付けて示す事も学びます。

授業の到達目標
① 環境は自分を含め繋がっていることを理解する。② 食情報の捉え方と食の持つ功罪を理解する。③ 子どもを取り巻く食環境は、その背景とともに考える。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　各回の授業において気になったキーワード等について、関連事項も含め調べてまとめ、各回で配布するプリント資料とともにノートに記しておく。そのノートは、グループディスカッションやレポートの素材となるよう、後に利用できるようにしておく。

評価方法
授業への取り組み姿勢（20%）、グループワークおよびグループディスカッション（40%）、まとめのレポート（40%）

教科書	参考図書
印刷物を適宜配布します。	吉田勉監修「私たちの食と健康」三共出版

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
積極性を評価します。毎回、講義終了時に質問票を配布します。

01	オリエンテーション：「食環境論」で学んで欲しいこと。授業の進め方、評価法など
02	食と環境1：私たちを含めた生態系を考えよう
03	食と環境2：環境ホルモン、母乳とダイオキシン、グループディスカッション
04	食と環境3：食品ロス、食品自給率
05	食生活と健康、食品の機能性、栄養チェックシートで食生活を評価
06	フードファディズム、食の功罪を考える、グループディスカッション
07	食の安全性1：ポストハーベスト、遺伝子組み換え食品、牛海綿状脳症(BSE)など
08	食の安全性2：食品表示、食品添加物、グループディスカッション
09	食の安全性3：食物アレルギー、口腔アレルギー
10	食の安全性4：食品衛生
11	子どもと食環境1：子どもを取り巻く食の現状と課題
12	子どもと食環境2：小児生活習慣病
13	子どもと食環境3：食育の必要性、グループワーク・グループディスカッション
14	子どもと食環境4：母子栄養、成長と栄養
15	講義まとめ、まとめのレポート
16	

2019年度シラバス

科目名:発達心理学特論	担当者:小川　絢子	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
子どもの心理を多面的に深く理解するための講義です。本講義では、乳幼児の発達に関する諸研究の成果をふまえつつ、保育者としての子ども理解をより深めていきます。加えて、実践記録の読み合わせ、実習のエピソード発表や子どもの発達を踏まえた指導案の作成・発表などを行い、子どもの発達についての理解をいかに保育実践と結びつけていくかを検討していきます。

授業の到達目標
本授業の目標は以下の3点です。乳幼児期の心身の発達を専門的に理解し、人に説明できる力をつける。乳幼児期の発達と保育実践を結びつけて理解する。さらに、これらの理解を自分の保育にどう活かすかを考察する力を養っていく。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
準備学修として、授業で紹介する実践記録を読んでおきましょう。週1回、15分程度が望ましいです。また、発表の資料作成の時間が1時間程度必要です。事後学修としては、授業で得た子どもの発達に対する理解やそれをふまえた保育実践について、人に話してみる機会を持つとよいと思います。

評価方法
期末レポート（70%）、授業参加態度（15%）、プレゼンテーション（15%)から、総合的に評価します。授業参加態度が一定の基準を満たさない場合、原則として、期末レポートの提出資格はありません。

教科書	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
詳細は初回の授業にてお知らせします。

01	イントロダクション
02	乳児期①― 乳児期の認知発達と対人関係の変化
03	乳児期②― 0歳児の発達と生活・遊び
04	乳児期③― 0歳児の発達を踏まえた実践を考える
05	幼児期前半①―乳児期から幼児期へ― 1歳半の節における認知発達と対人関係の変化
06	幼児期前半②―1歳児の発達と生活・遊び
07	幼児期前半③―1歳児の発達を踏まえた実践を考える
08	幼児期前半④― 2歳児の発達と生活・遊び
09	幼児期前半③― 2歳児の発達を踏まえた実践を考える
10	幼児期後半①―幼児期後半へ― 3歳から5歳の認知発達と対人関係の変化
11	幼児期後半②― 3歳児の発達と生活・遊び
12	幼児期後半③― 4歳児の発達と生活・遊び
13	幼児期後半④― 5歳児の発達と生活・遊び
14	幼児期後半④― 3・4・5歳児の発達を踏まえた実践を考える1
15	幼児期後半④― 3・4・5歳児の発達を踏まえた実践を考える2
16	幼児期後半④― 3・4・5歳児の発達を踏まえた実践を考える3

2019年度シラバス

科目名:教育課程編成論	担当者:青山　裕美	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
教育課程について学ぶ中で、「計画に基づいた実践」とは何か深く考えることができるようにする。子どもとともに遊びや生活を創り出すことができる実践計画の考え方やあり方について深く考え、作成の方法について検討を重ねる。具体的場面を通して様々な角度から考えて実際にグループで編成して発表する。

授業の到達目標
教育課程の編成の仕組みと考え方について理解する。編成に必要な関係法令の内容に理解を深め、理論と実践を結びつけることができるようにする。課程の編成や計画の立案にとって重要なポイントである、子ども理解や子どもの育ちを支える環境等への理解を深め、編成に反映できる力を身につけることができるようにする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
保育に関係する法令や時事について調べ関心を深める。子どもを取り巻く環境の問題や課題について関心を持って、準備学修や事後の振り返りを行い、実際に編成に積極的に取り組めるようにする。

評価方法
授業への参加態度・グループ活動と発表（40%）　提出物（30%）　授業最後のまとめレポート（30%）

教科書	参考図書
資料を適宜配布する。	幼稚園教育要領H29告示　保育所保育指針H29告示　幼保連携型認定こども園教育・保育要領H29告示

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
グループ活動に積極的に参加することを期待する。

01	「教育課程」とは
02	教育課程の編成　計画と意義
03	教育課程編成に必要なこと①　　関係法規の理解・子どもの発達理解
04	教育課程編成に必要なこと②　　地域や家庭環境の実態の理解・子どもの育ちを支える環境
05	教育課程編成と展開　評価　PDCAサイクルの考え方とその意義
06	幼稚園教育要領と保育計画との関連
07	教育課程から指導計画へ　小学校課程へと続くための要録の記録について
08	小学校課程への接続
09	教育課程編成の考え方と方法①　　特色ある教育課程
10	教育課程編成の考え方と方法②　　保育内容（領域）
11	教育課程編成の考え方と方法③　　3歳児の計画
12	教育課程編成の考え方と方法④　　4歳児の計画
13	教育課程編成の考え方と方法⑤　　5歳児の計画
14	教育課程を保育実践に活かすために
15	まとめと振り返り
16	なし

2019年度シラバス

科目名:特別保育論Ⅰ	担当者:吉田　真弓	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂（定）がされ、教育・保育の見直しがされていく中で、保育者にとって保育を構想する力や、子どもの活動に沿って総合的に指導する力を身に付けていくことが、ますます重要になってくる。現在の様々な今日的課題を探りながら、今現場で求められている保育者としての保育実践に繋がる保育内容・指導法について考えを深めていく。
授業の到達目標 乳幼児期の教育・保育の重要性を理解し、保育を構想する力や子どもの活動にそって総合的に指導する力が 身につくように、保育者として求められる専門性を学ぶ。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 有資格者としての自覚のもと、より主体的に今日的な課題についての報道や書物に目を向け、理解を深めていく。
評価方法 筆記試験・発表内容６０％、授業の振り返り２０％、授業態度２０％による総合評価

教科書 レジュメ等を配布	参考図書 幼稚園教育要領　保育所保育指針

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 乳幼児期の教育・保育の改革が進められている今日、ニュース・新聞等における情報に関心をもち、自分の考えを明確にもつようにしよう。また子どもと関わる機会を積極的に作っていくようにしよう。

01	乳幼児期の教育・保育の歴史
02	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園の改訂（定）の趣旨
03	乳幼児期の教育・保育において育みたい資質・能力及び幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
04	保育者の資質と専門性の向上
05	ＤＶＤ視聴及び事例を基に、一人一人に応じた指導の在り方の理解
06	ＤＶＤ視聴及び事例を基に、環境の構成の重要性の理解
07	ＤＶＤ視聴及び事例を基に、一人一人の内面理解と適切な援助の在り方の理解
08	幼児のトラブルと育ち
09	保護者への対応と子育て支援
10	現場で役立つ保育教材の作成と効果的な発表の仕方を学ぶ①
11	現場で役立つ保育教材の作成と効果的な発表の仕方を学ぶ②
12	小学校につながる発達と学びの連続性
13	幼児を守る安全教育と危機管理
14	自己評価・外部評価
15	教育・保育における今日的課題・まとめ
16	なし

2019年度シラバス

科目名:特別保育論Ⅱ	担当者:青山　裕美	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:特になし		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
この講義は，現代社会における保育問題や子ども・子育て問題への認識を高めることを目的としている。そのため単に講義を聞くだけでなく，討議に積極的に参加して，問題分析や課題解決のための方策などを考察できる主体性を養っていく。

授業の到達目標
１．保育をめぐる今日的課題を理解し，その分析・考察ができるための技法を学ぶ
２．議論などの場面において論理的に物事をとらえ，それを言葉で説明することができる

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
１．シラバスで授業計画を確認して専門知識の理解に努めておくこと
２．事前学習や事後学習を通して，みずからの問題意識を整理しておくこと
３．授業内で既出された意見が自らの知見と異なる場合は、必ずメモして自分の考えをまとめておくこと

評価方法
授業への参加態度（50%）　提出物（30%）　最後のレポート（20%）

教科書	参考図書
なし 適宜配布する	保育園問題（前田正子著　中公新書）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
保育に関する新聞記事等からの情報収集に努めること

01	イントロダクション（保育現場をめぐる常識への問い）
02	産休前から始まる保活とは？
03	様々な保育施設
04	子ども・子育て支援新制度とは何か？
05	待機児童はなぜ解消しない？
06	待機児童の歴史と国の保育施策の変遷
07	幼児教育保育の無償化
08	保育士はなぜ足りないのか？
09	保育者として生きる　①　待遇を考える
10	保育者として生きる　②　専門性の発達を考える
11	保育事故から学ぶ
12	保育現場という命綱
13	保育園のパラドックス
14	日本の保育の近未来 日本の保育の近未来
15	まとめ
16	なし

2019年度シラバス

科目名:保育内容特演Ⅱ	担当者:高須 裕美	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
乳児を対象にした子育て研究所での音楽実践公演に取り組み、子どもと音楽の理解を深める。子どもが音楽や表現活動を楽しむ姿を探るため、子育て交流会での数回のフィールドワークを課す。その経験をもとに、歌う活動、あるいは合奏活動、音楽劇などの音を介した取り組みを実践する。

授業の到達目標
子育て研究所における音楽実践公演で、未就園児を対象にした表現豊かな音楽実践を行う。グループでのプロジェクトとして、作品を洗練した内容、表現にするための議論を受講者同士が行うこと。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
リハーサル時の表現内容をビデオ考察し、内容と表現についてのレポート課題を3回程度作成する。

評価方法
出席回数40% 課題レポート３0%、プレゼンテーション30%で評価する。

教科書	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
音楽教育の技術を学びながら、受講者自身の表現力も同時に学ぶことを期待する。

01	受講者による音楽活動経験や、実践での疑問点や課題についての討論
02	子育て支援室訪問
03	子育て支援室訪問
04	子育て支援室訪問
05	音楽実践計画
06	音楽実践計画
07	音楽実践計画
08	音楽実践　リハーサル
09	音楽実践　リハーサル
10	音楽実践　リハーサル
11	音楽実践　リハーサル
12	音楽実践　リハーサル
13	音楽実践　リハーサル
14	音楽実践　1
15	音楽実践　2
16	まとめ

2019年度シラバス

科目名:保育講読演習	担当者:	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法 幼稚園教諭・保育士として働くにあたり、子どもたちや親また共に働く仲間と良好な関係を作っていくためにそれぞれの現状を知り、それぞれの立場に立ち、問題点や今後の課題について考え話し合う
授業の到達目標 ①自分自身の育ちの振り返りを行う ②子ども・子育ての現状を知る ③保育者として求められているものとは何かを考える
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 毎時間、事前に授業（新聞記事）を読んで各自で考えをまとめてくる 2週間前までに、発表記事・レジュメを作り印刷、発表前週に全員に配布する。 今までに取り上げた新聞記事（帝王切開・サプリメント・虐待・アレルギー・保育事故・災害避難・血のつながり・お尻ぺんぺん・幼児スマホ・待機児童問題・子育て参加度イクメンなど）
評価方法 新聞記事のまとめ、授業参加度、ノート、学期末テスト試験で評価する

教科書	参考図書
なし	その都度紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 毎時間、グループ内討論、全体討論を行い、他者の考え方を聴き視野を広げ自分自身の考えや意見をまとめる

01	オリエンテーション（グループ決め）
02	生命の誕生DVD視聴　自分自身の育ちといのちの軌跡
03	より良い人間関係をつくるために①聴き上手になるために
04	より良い人間関係をつくるために②話し上手になるためにより良い人間関係をつくるために②話上手になるために　ノンバーバルコミュニケーション
05	新聞記事より討論・まとめ①グループワーク＋発表＋まとめ
06	同じ　②同じ
07	同じ　③同じ
08	同じ　④同じ
09	同じ　⑤同じ
10	同じ　⑥同じ
11	同じ　⑦同じ
12	同じ　⑧同じ
13	明橋大二の講演DVD視聴・感想
14	現在の子どもや親の現状と保育の問題点・留意点
15	保育者として求められていることとは何か
16	

2019年度シラバス

科目名:音楽演習	担当者:桐生　敬子	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法 短大で学んだ基礎技能をもとに、さらなる音楽性および表現能力の向上を目指す。受講人数によって多少方法が異なるが、個人またはグループによる表現、発表を行う。
授業の到達目標 人前で表現することに慣れる。そのためには、どのような準備と工夫が必要であるか、考える力を養う。
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 演奏だけでなく楽譜を記すための基本的な音楽理論を再確認する。有資格者であるので、いつ現場に出ても通用するように、常に弾き歌いのレパートリーをキープしておくこと。当然ながら、全て暗譜である。
評価方法 授業への参加・取り組み40%　発表60%（子どもの歌をつくろう30%・連弾30%）

教科書 特になし	参考図書 その都度紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 短大授業とは異なり、学生個々の目指す音楽表現について、自身の進路に必要な技術とは何かについて考えることが肝要である。また、与えられた課題については自己の能力の限界に常に挑み続けること。

01	授業ガイダンス（概要の説明）
02	子どもの歌をつくろうⅠ
03	子どもの歌をつくろうⅡ
04	子どもの歌をつくろうⅢ
05	子どもの歌をつくろうⅣ
06	子どもの歌をつくろうⅤ
07	子どもの歌をつくろうⅥ
08	子どもの歌をつくろうⅦ
09	子どもの歌をつくろうの発表
10	連弾をしようⅠ
11	連弾をしようⅡ
12	連弾をしようⅢ
13	連弾をしようⅣ
14	連弾をしよう　リハーサル
15	連弾発表会

2019年度シラバス

科目名:図画工作演習	担当者:高田　吉朗	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法 図画工作というのは、感覚と思考を豊かにするその土台を開発する役割があると考えられます。本講では幼児の発達段階に即した造形表現を立案できる能力を育成することを目標としその指導方法を検討する。
授業の到達目標 短大時の造形技術や表現を基礎にして、よりステップアップした質の作品を作り上げる。 既に実習を経験し有資格者として保育現場に即した作品を作り上げる。 幼児の造形に留まらず、将来に繋がる芸術感覚を広く身につける。
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 制作を進めるうえでの計画性と応用性を日常から心掛けること。 展覧会などに足を運び、作品に触れ感性を磨く。
評価方法 作品の評価50%、出席状況を含めた受講態度50%

教科書 特になし	参考図書 テーマに合わせて紹介

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) お互いの作品を鑑賞し参考にしたり指導方法を検討したり出来るように心掛ける。

01	ガイダンス（子供の表現に潜むもの）
02	生活に役立つやきものつくり（計画・制作）
03	生活に役立つやきものつくり(制作)
04	生活に役立つやきものつくり（制作）
05	生活に役立つやきものつくり（制作）
06	音楽劇の衣装や舞台装置制作1
07	音楽劇の衣装や舞台装置制作2
08	音楽劇の衣装や舞台装置制作3
09	音楽劇の衣装や舞台装置制作4
10	保育現場で役立つ造形1
11	保育現場で役立つ造形2
12	保育現場で役立つ造形3
13	保育現場で役立つ造形4
14	保育現場で役立つ造形5
15	指導方法における発表・まとめ
16	なし

科目名:幼児体育演習	担当者:平野　朋枝	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　本科目は、保育科ディプロマポリシー1(理論的・実践的な問題解決能力)に大きく関連している。授業では、未就園児とその保護者を対象として、運動遊びの環境を提供し、運動を楽しむことを目的とした援助を行う。この取り組みは本学近隣在住の保護者への子育て支援事業を行う桜花学園子育て交流会や名古屋短期大学付属幼稚園と連携して、地域の子育てに関わる課題解決を目指している。　実践を通して、現代の子どもの体力・運動能力の状況や、幼児期における望ましい体力・運動能力の獲得についての知識・技術を身につける。

授業の到達目標
①低年齢児に焦点を当て、様々な運動を経験するための環境を構成できるようになる。 ②子どもが達成感を味わえるような援助ができるようになる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　運動遊びの参考書などを用いて、体を動かす遊びのレパートリーを増やしておくこと。より良い実践を目指して、授業以外でも環境の構成に必要な物品の準備や学生同士の意見交換を行うようにすること。また、日ごろから子どもの健康に関する書籍や新聞・雑誌の記事に目を通しておくことが望ましい。

評価方法
　実践への取り組み状況（30%）、提出物（40%）、授業に取り組む態度（30%）より、総合的に評価する。但し、欠席等の授業への不参加については、これらの総合点より減点する。授業記録（ノート）は期末試験に相当するため、必ず提出しなければならない。

教科書	参考図書
適宜資料を配付する	「幼児体育」（建帛社）　「保育と幼児期の運動遊び」（萌文書林）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・運動するのにふさわしい服装・身だしなみでなければ受講を認めない。・日頃から運動に親しんだり、戸外で活動したりすることを心がけましょう。

01	現代の子どもの体力・運動能力，外遊びの重要性
02	運動指導の計画①　遊び環境の構成、安全面への配慮
03	運動指導の計画②　低年齢児の運動面の発達と健康課題
04	運動指導の実践①　未就園児とその保護者を対象とした運動遊びの環境構成
05	運動指導の実践②　未就園児とその保護者を対象とした運動遊びの援助の在り方
06	運動指導の実践③　第1回実践
07	運動指導の実践④　第1回実践の振り返りと次回の準備
08	運動指導の実践⑤　第2回実践
09	運動指導の実践⑥　第2回実践の振り返りと次回の準備
10	運動指導の実践⑦　第3回実践
11	運動指導の実践⑧　実践全体の振り返りとまとめ
12	集団遊びの教材研究
13	心身を育てる伝承遊び①
14	心身を育てる伝承遊び②
15	まとめ
16	なし

2019年度シラバス

科目名:子育て支援実践	担当者:吉見　昌弘	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
本授業は、多様なニーズに対応した高い能力をもつ保育と子育ての専門家を目指し、「子育て支援論」の授業で学んだ内容を実践に生かしていきます。そのために地域の子育て支援に関する情報収集やネットでの情報発信、施設への見学、実践への参加を経験しながら子育て支援の実践力を高めていきます。実際の授業の展開においては構内の施設（大学図書館等）や地域の子育て支援施設等と連携しながら学生が主体となって子育て支援の実践を展開します。なお、授業の課題はmoodleを利用したeラーニングを活用します。

授業の到達目標
１　自分たちの住む身近な市町村における子育て支援の展開について調査し、子育てに必要な情報を多様なメディアを活用して提供することができる
２　自分自身が子育て支援の実践を通して主体的に社会的で貢献できる実践を行うことができる

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修として、次回の授業前に課題を出します。その課題を次回授業までに作成して下さい。さらに、実践活動においては、そのための事前準備を主体的に実施して下さい（授業毎に２時間）。事後学修においては、授業で学んだ事を実践に生かす話し合いをグループで実施すること。実践後には、振り返りで反省会等を各グループで実施して下さい（授業毎に２時間）。

評価方法
授業・実践活動への参加態度や提出物を70%、最後のレポート30%を目安として総合的に評価します。なお、なお本授業では、指示しない限りスマホ、携帯電話の使用及び飲食を禁止します。

教科書 授業中に指示します	参考図書 授業中に指示します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
この授業は学生自身がアクティブに取り組むことが要求されます。教員が指示するよりも、与えられた課題について主体的に取り組んで下さい。必要な課題があればmoodleへ提示します。適宜参照して下さい。なお、質問等は授業の前後やオフィスアワー（授業のある日のお昼休み）とし、連絡先は授業時に開示します。

01	オリエンテーション（授業全体の流れ、授業の進め方やルールの説明）
02	自治体による地域の子育て支援活動　　※以下、順番は状況に応じて入れ替わります 自治体による地域の子育て支援活動　　※以下、順番は状況に応じて入れ替わります 自治体による地域の子育て支援活動　　※以下、順番は状況に応じて入れ替わります自治体による地域の子育て支援活動　　※以下、順番は状況に応じて入れ替わります 自治体による地域の子育て支援活動　　※以下、順番は状況に応じて入れ替わります 自治体による地域の子育て支援活動　　※以下、順番は状況に応じて入れ替わります
03	企業・NPOなどによる地域の子育て支援活動
04	図書館などによる地域の子育て支援活動
05	多様なメディアを用いた子育て情報の提供
06	公立図書館等の子育て支援活動の見学
07	公立図書館等の子育て支援活動の調査
08	地域の子育て支援の実践（１）テーマの設定　※構内もしくは地域の施設を利用して実践します
09	地域の子育て支援の実践（２）チラシ作成と宣伝
10	地域の子育て支援の実践（３）指導案の作成
11	地域の子育て支援の実践（４）準備・製作活動
12	地域の子育て支援の実践（５）実践の展開グループ１（実践テーマ未定）
13	地域の子育て家庭の実践（６）実践の展開グループ２（実践テーマ未定）
14	地域の子育て家庭の実践（７）実践の展開グループ３（実践テーマ未定）
15	まとめとレポート提出
16	なし

科目名:保育特別研究Ⅱ	担当者:吉見　昌弘,小川　雄二,高田　吉朗,高須　裕美,平野　朋枝,小川　絢子,山下　直樹,小柳　雅子,上原　隆司,新沼　英明,髙橋　一郎,小島　千恵子	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	通年
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	4
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　本授業は、国際的・地域的な問題解決能力を有する保育の専門家を目指し、４年間の学修を総括するための学修総まとめ科目です。これまでの授業等で学んだ成果はもとより、自らの経験や実習、調査した学修全体の省察をします。具体的には、指導教員の指導のもと、自ら取り組むテーマに基づき学修・探求を行い論文を作成します。その過程において、中間発表会を実施し、論文作成のための「履修計画書」を作成した上で、論文を完成させ、ポスター発表形式の口頭試問を実施し、「成果の要旨」としてまとめていきます。なお、本授業では直接指導に加えて適宜、音声、動画を加えた多様なメディアを高度に利用し、授業の課題や資料はmoodleなどのeラーニングも活用し、論文の成果をもって授業に相当する場合もあるものとします。

授業の到達目標
以下の項目について学ぶことで、将来、保育者として身につける資質を育成することを目標とします。
１　学修の総まとめとして論文を計画、立案、作成することで保育・教育を研究する技能と能力を理解できる
２　学士課程教育に相当する４年間の学修成果を総括することで思い描く保育者像を描くことができる

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
準備学修として、授業前に指導教員から与えられた課題をまとめ、報告できるように準備をすること（授業毎に２時間）。事後学修としては、指導を受けた後、指導の内容を論文に反映できるよう、自分なりに研究し、考察する過程を繰り返すこと（授業毎に２時間）。

評価方法
論文35%、中間発表会15%、口頭試問（ポスター発表形式）20%、授業参加点30%として総合的に評価する。

教科書 授業時に指示します	参考図書 授業時に指示します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
この授業は、短期大学等の２年間と専攻科における２年間で学んだすべての学修成果を論文にまとめることを目指します。担当教員の指導を受けながらさまざまな科目と関連づけて学修を進め、質問等はオフィスアワー（授業のある日のお昼休み）の時に来訪して下さい。連絡先は授業時に開示します。

01	年間の授業の流れの説明（オリエンテーション）
02	論文のテーマと構成の再確認（１）はじめに等
03	論文のテーマと構成の再確認（２）章立て等
04	論文のテーマと構成の再確認（３）文献等
05	論文の中間発表会の準備（１）論文添削
06	論文の中間発表会の準備（２）論文修整
07	論文の中間発表会の準備（３）論文下書き
08	論文の中間発表会と質疑応答
09	論文の中間発表会の反省と修正（１）点検
10	論文の中間発表会の反省と修正（２）修整
11	論文の中間発表会の反省と修正（３）加筆
12	論文の「履修計画書」の立案
13	論文の「履修計画書」の作成
14	論文の「履修計画書」の完成
15	前期のまとめ
16	文献・先行研究のまとめ（１）前半
17	文献・先行研究のまとめ（２）後半
18	保育（教育）実習のまとめ（１）前半
19	保育（教育）実習のまとめ（２）後半
20	保育（教育）実習のまとめ（３）全体
21	論文全体の構築とまとめの作成
22	論文全体の構築とまとめの完成
23	学修総まとめの論文の確認
24	学修総まとめの論文の完成
25	口頭試問の準備・質疑応答の対策
26	ポスター発表形式の口頭試問の実施
27	口頭試問の反省
28	学修総まとめの「成果の要旨」作成
29	学修総まとめの「成果の要旨」完成

30	総括
31	なし

2019年度シラバス

科目名:学ぶことと現代	担当者:髙橋　一郎	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
現代社会において学ぶことの意味について考えることを授業目的とする。教育を狭義の学校教育に絞り込まず、広義にとらえて家庭、社会の場における教育や学ぶことの意味について検討する。これによって現代社会において自らがどう生きるかについても考えていく授業とする。

授業の到達目標
社会の様々な分野に焦点を当て、基礎知識としての簡易講義(教員)、学生の発表、自由討論、意見交換を経て発表者にその回の授業をまとめてもらいます。それらの積み上げで、現代社会の様々な分野に幅広く光を当てる視野を身につけることを目標といたします。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
新聞を読み、ニュースを見て、世の中の動きを把握する。

評価方法
ディスカッションへの参加姿勢70%　毎回のレポート30%

教科書	参考図書
なし	図書館教員指定図書[髙橋]の本

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
積極的な発言（意見、提案）が求められるこの授業において、学生の活発な議論を期待しています。

01	授業概要　クラス編成
02	家族と家庭
03	笑いとユーモア
04	法律と道徳
05	公害～ケーススタディ 水俣病
06	学歴 競争社会 平等
07	危機管理
08	親友 友情
09	戦争と平和
10	契約
11	愛 恋愛
12	勤労 職業
13	奉仕 ボランティア
14	公共性と倫理
15	ネット社会　　全体のまとめ
16	

2019年度シラバス

科目名:現代社会と女性	担当者:嶋守　さやか	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
この授業では、現代の日本および世界の子ども、女性、環境の状況と保育についての現状を把握し、一見男女平等社会に見える現代社会で女性はどういう問題をかかえているのか。また、それらの問題が生じる社会・歴史的な背景を理解し、その問題解決の視点を保育に生かす方法について考察します。

授業の到達目標
現代女性の結婚・出産・労働の現状を学び、女性のライフコースについて考察することで、保育・子育て支援サービスを利用する女性が置かれている社会的立場やその現状が説明できるようになる。女性としての主体的な生き方とは何かを理解し、具体的将来像を描けるようになる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
単元ごとに配布するワークシートの解答を準備学修とします。その上で授業に参加し、各学生がワークシートに記述した内容の確認、事後課題への解答を事後学修として行います。授業期間中に３回、理解度評価を行いますが、各理解度評価の前週にその内容についての解説を行います。

評価方法
評価は、理解度評価70%、毎授業後に提出するミニコメントシート（毎授業後のまとめ）30%にて行います。

教科書	参考図書
プリントを配布して使用します。	適宜、指示します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
教科書を積極的に通読すること。授業内容に関する重要な連絡は、授業時間中に適宜行います。オフィスアワーは毎週金曜日のお昼休みとします。

01	オリエンテーション：講義概要の説明
02	女性とライフコース：仕事と結婚（１）
03	女性とライフコース：仕事と結婚（２）
04	第１回　理解度評価および解説
05	女性とライフコース：出産（１）
06	女性とライフコース：出産（２）
07	第２回　理解度評価および解説
08	女性とライフコース：子育て（１）
09	女性とライフコース：子育て（２）
10	第３回　理解度評価および解説
11	性別・性差・性役割（１）――　ジェンダー理解
12	性別・性差・性役割（２）――　ジェンダー理解
13	映像資料から考える現代社会と女性（１）
14	映像資料から考える現代社会と女性（２）：グループディスカッション
15	第４回　理解度評価および解説
16	なし

2019年度シラバス

科目名:女性と労働	担当者:石月　静恵	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
2017年日本における女性労働力人口は2859万人、労働力人口総数に占める女性の割合は43.8%です。また、非正規の職員・従業員は2017年1月、男性648万人、女性1367万人となっていて増加し続け問題点も多くあります。この授業では、女性労働の歴史を踏まえ、現在の女性労働について考察します。授業は講義を中心にしますが、映像を取り入れます。さらに、学生をグループ分けして意見交換したり、発表もしていただきます。また、時間的に可能であれば、女性労働の具体的事例としての「有松絞り」を見学・体験していただきます。

授業の到達目標
女性労働の歴史を知り、現在の女性労働のあり方を認識することを目標とします。また、労働基準法・男女雇用機会均等法について知り、女性労働者の権利を学び、活用できるようになることを目指します。さらに、現在問題になっている非正規労働についての認識を深め、女性が就業を継続できる条件についても考察します。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
調査課題を出しますので、調べてまとめること。労働基準法や雇用機会均等法をテーマにして、女性労働の現状、問題は何か、図書、インターネットや新聞で調べて小レポートを作成し、発表していただきます。

評価方法
授業参加態度　20%　レポート作成・発表40%　テスト40%

教科書	参考図書
特に指定しません	歴史にみる女性労働ー古代から現代まで（勉誠出版、2019年2月）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
小レポートのデータはなるべく最新のものにすること、連絡手段は授業時に知らせます。

01	授業ガイダンス
02	講座ビデオ「働く女性の60年」・戦後の女性労働について
03	「近代女性労働の特徴」を読む
04	ドキュメント「近江絹糸人権闘争の記録」・労働争議について考察
05	近現代日本の女性労働の特徴をまとめ、発表する（小レポート①）
06	労働基準法を学ぶ（１）
07	労働基準法を学ぶ（２）
08	有松絞り　見学・体験（１）
09	有松絞り　見学・体験（２）
10	労働基準法についてのレポート発表（小レポート②）
11	男女雇用機会均等法を学ぶ（１）
12	男女雇用機会均等法を学ぶ（２）
13	女性労働者差別撤廃裁判闘争を学ぶ
14	男女雇用機会均等法についてのレポート発表（小レポート③）
15	授業のまとめ
16	テスト

科目名:脳神経科学	担当者:山本　哲也	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
脳神経科学と言うと、医学的で難解で縁遠いものに思われがちであるが、実際は私達の知覚や行動、感情、発達等と密接に関わっている。この授業では、錯視や順応等の視覚心理学的なデモンストレーションとこれらの日常への応用や、世間に溢れている脳神経科学に関する誤り（神経神話）等について、講義を通じて紹介する。

授業の到達目標
学生は私達の知覚が脳の神経回路の構造や特性によって決定付けられていることを理解する。また、一方で、こうした脳神経科学的な知見と行動との関わりについて、明らかになっている事柄はごく一部であることも理解する。脳科学の名の下で語られている様々な誤りを認識することで、正しい脳科学の知識を習得する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業では、脳神経科学を少しでも身近に感じ、興味を深めてもらうために、視覚や発達の心理学に関する専門的なものから日常的なものまで、多岐に渡る話題や事象を取り扱う。授業内だけでは理解し切れない内容については、各自で復習し、それでも分からないことを次の授業で質問できるようにしておくことが強く望まれる。

評価方法
授業への参加態度30%、数回の授業毎に課す課題30%、期末レポート40%

教科書	参考図書
なし	授業中に指示する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
受講要件は特にないので、興味を持って意欲的に授業に参加し、疑問に感じた事柄について積極的に質問してくれることを期待する。連絡はメールを通じて行う。連絡先は授業で開示する。

01	ガイダンス
02	脳神経科学の歴史：脳はどのように理解されてきたか？
03	脳の構造と機能局在1：五感や言葉はどこでどのように処理されているか？
04	脳の構造と機能局在2：脳疾患から見える脳機能／沈黙の前頭葉？
05	脳の構造と機能局在3：脳を構成する細胞群（ニューロンとグリア細胞）
06	脳機能の計測法：どのようにして生きた人間の脳を計測できるまでになったか？
07	様々な情報処理：視覚以外の感覚情報処理から言語・運動・記憶・情動まで
08	視覚情報処理1：色はどのように見え、どのように理解されてきたか？
09	視覚情報処理2：錯視や順応から見える脳の情報処理（前編）
10	視覚情報処理3：錯視や順応から見える脳の情報処理（後編）
11	神経神話1：3歳までに人の基本的な能力や性格が決まる臨界期が存在する？
12	神経神話2：私達は脳の10%しか使っていない？
13	神経神話3：バイリンガルに関する様々な神話
14	神経神話4：左脳型・右脳型？男性脳・女性脳？
15	まとめ：これまでの授業内容の総括・復習
16	なし

2019年度シラバス

科目名:保育研究法Ⅰ	担当者:吉見　昌弘、小野克志	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　本授業は、多様なニーズに対応した高い能力をもつ保育と子育ての専門家を目指し、日々の保育の中から課題を見つけて、継続的に研究を重ねることで、保育に対する意識が高まり、専門性が深まることが実感できるように、自分の課題を発表したり、提案したりして、グループあるいは全員で検討する。よりよい保育を作り上げていくことができるように話し合いを重ね、保育をより科学的、理論的に追求していけるようにする。なお、本授業では直接指導に加えて適宜、音声、動画を加えた多様なメディアを高度に利用し、授業の課題や資料はmoodleなどのeラーニングも積極的に活用していく。

授業の到達目標
１学修総まとめ科目の基礎に関連する様々な研究方法や文献の読み方について理解できる
２過去の保育研究や保育実践について検討したり、保育特別実習での振り返りなどから、研究のあり方について検討することができる
３保育の実践記録を読み解くなどして、保育の研究のあり方を探求することができる

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
保育研究をするという視点をもって、文献研究や質問紙調査を授業外の学修として探求する。さらに、保育実習に臨んでは、科学的に保育を考えるために、実践の記録を多く残し、実習を終えるごとに、論文作成の有効な資料にできるように自主学習で努力すること。なお、実習の記録は、自分の研究テーマを中心に記載し、保育を深く見つめることができるような記録にしましょう。

評価方法
授業における積極的な取り組みの様子を20%、moodleを使ったeラーニングによる課題の提出を60%、その他のレポートの提出を20%として総合的に評価する。

教科書 特になし	参考図書 幼稚園教育要領H29告示　保育所保育指針H29告示　幼保連携型認定こども園教育・保育要領H29告示

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
この授業はmoodleを積極的に活用しながら指導していきます。授業に対する質問や連絡はmoodleの本授業のコースのフィーラムもしくは連絡用メールアドレスで相談して下さい。

01	オリエンテーション、年間の授業の流れの説明
02	研究テーマの設定の仕方
03	研究方法の種類と用い方（１）
04	研究方法の種類と用い方（２）
05	資料収集の方法（１）
06	資料収集の方法（２）
07	資料分析の方法（１）
08	資料分析の方法（２）
09	アンケート調査の方法
10	アンケート調査の統計処理
11	グラフ・表の書き方
12	論文全体の構成の作り方
13	論文全体の構成案の作成
14	実践記録の事例収集
15	実践記録の読み方とまとめ
16	なし

2019年度シラバス

科目名:保育研究法Ⅱ	担当者:吉見　昌弘	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　本授業は、多様なニーズに対応した高い能力をもつ保育と子育ての専門家を目指し、日々の保育の中から課題を見つけて、継続的に研究を重ねることで、保育に対する意識が高まり、専門性が深まることが実感できるように、自分の課題を発表したり、提案したりして、グループあるいは全員で検討する。よりよい保育を作り上げていくことができるように話し合いを重ね、保育をより科学的、理論的に追求していけるようにする。なお、本授業では直接指導に加えて適宜、音声、動画を加えた多様なメディアを高度に利用し、授業の課題や資料はmoodleなどのeラーニングも積極的に活用していく。

授業の到達目標
１学修総まとめ科目の基礎に関連する様々な研究方法や文献の読み方について理解できる
２過去の保育研究や保育実践について検討したり、保育特別実習での振り返りなどから、研究のあり方について検討することができる
３保育の実践記録を読み解くなどして、保育の研究のあり方を探求することができる

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　保育研究をするという視点をもって、文献研究や質問紙調査を授業外の学修として探求する。さらに、保育実習に臨んでは、科学的に保育を考えるために、実践の記録を多く残し、実習を終えるごとに、論文作成の有効な資料にできるように自主学習で努力すること。なお、実習の記録は、自分の研究テーマを中心に記載し、保育を深く見つめることができるような記録にしましょう。

評価方法
授業における積極的な取り組みの様子を20%、moodleを使ったeラーニングによる課題の提出を60%、その他のレポートの提出を20%として総合的に評価する。

教科書	参考図書
特になし	幼稚園教育要領H29告示　保育所保育指針H29告示　幼保連携型認定こども園教育・保育要領H29告示

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
この授業はmoodleを積極的に活用しながら指導していきます。授業に対する質問や連絡はmoodleの本授業のコースのフィーラムもしくは連絡用メールアドレスで相談して下さい。

01	実践記録の分析評価
02	実践記録を保育に生かすには（１）
03	実践記録を保育に生かすには（２）
04	実践記録のとり方（１）
05	実践記録のとり方（２）
06	実践記録を実際にとる（１）
07	実践記録を実際にとる（２）
08	実践記録の検討（１）
09	実践記録の検討（２）
10	保育内容の検討（１）
11	保育内容の検討（２）
12	保育内容指導法の検討（１）
13	保育内容指導法の検討（２）
14	保育環境構成と教材研究
15	全体のまとめ
16	なし

2019年度シラバス

科目名:保育の理論と実践Ⅰ	担当者:吉田　真弓	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
保育の中で保育者は、様々な課題を見つけ、その課題に向けて研究的に取り組む姿勢が求められる。課題を見つけるためには、確かな幼児理解が必要である。この授業では、具体的な事例を検討するとともに、実際に保育の現場において実践の記録をとり、それを他者と討論し合うことにより、幼児への理解を深められるようにする。また、幼児理解に基づいた保育方法を学ぶ。

授業の到達目標
①現場での観察や保育実践を通して、保育について深く議論したり、省察したりする。
②各自の実践を振り返り、実践記録のとり方を検討し、分析し合うことによって、実践記録を客観的資料として保育に生かす研究方法を学ぶ。
③幼児理解を深めるための実践記録の書き方を学ぶ。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・保育研究という視点で保育実践を議論できるよう、他者の実践記録等を読んで保育を科学的にとらえる目を養うようにしましょう。
・保育雑誌等を積極的に購読し、保育界の最新情報や研究動向に目を向けましょう。

評価方法
授業への参加態度・ミニレポート３０％、課題２０％、まとめのレポート５０％

教科書	参考図書
レジュメ等を配布	幼稚園教育要領解説・保育所保育指針解説

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
将来自分がなりたいと思う保育者像を思い描いて、授業では自分の意見を積極的に発表していってください。

01	授業オリエンテーション・事例検討
02	事例検討
03	事例検討
04	実践記録について
05	実践記録について
06	事例検討
07	事例検討
08	事例について全体討論とまとめ
09	実践保育実施
10	実践保育実施
11	実践保育実施
12	実践保育実施
13	実践保育のまとめ
14	実践保育のまとめ
15	まとめとレポート
16	

2019年度シラバス

科目名:障害児福祉特論	担当者:新沼　英明	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	選択

授業概要と方法
ソーシャル・インクルージョン（社会的包摂）が推進される我が国社会において、身体や発達に障害を抱える子どもが住み慣れた地域で生き生きと生活するために、支援者にもとめられる資質や知識、技術を総合的に理解することを目的とする。

授業の到達目標
①□障害児、医療的ケア児等の支援に関する基礎的知識、技術について理解し、支援者として実践できる。
②□障害児、医療的ケア児等の保護者のニーズの把握とソーシャルワークを実践できる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
①□施設ボランティア及び障害児施設、病児保育のボランティア等に積極的に参加する。
②□我が国における障害児施策の現状と課題については自ら進んで情報を得て、理解に努めること。

評価方法
　理由のない欠席は減点の対象とし、その他の欠席の場合には課題を課す。
　その他、レポート（50%）、小テスト（30%）、受講態度（20%）を総合的に評価するほか、授業中の発言等を評価対象とする。

教科書	参考図書
無し	授業中に適宜紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　障害児、医療的ケア児やその保護者が抱える生活上の困難を積極的に理解するように努めてください。ボランティア、施設見学などは積極的に行ってください。自らの興味・関心に基づき、1回以上の障害児施設又は医療的ケア児の施設見学を推奨します。

01	ガイダンス、障害児・医療的ケア児と保育の関わり
02	児童の権利擁護、ソーシャル・インクルージョンの理解
03	障害の理解①（身体障害児への支援と福祉制度）
04	障害の理解②（医療的ケア児への支援と福祉制度）
05	障害の理解③（精神保健・精神衛生）
06	障害の理解④（知的障害、発達障害）
07	病児、病後児、病弱児の保育と生活支援
08	障害児・医療的ケア児の保護者に対する支援①（現状の理解と福祉制度）
09	障害児・医療的ケア児の保護者に対する支援②（在宅生活支援の現状と課題）
10	障害児・医療的ケア児の保護者に対する支援③（施設福祉の現状と課題）
11	障害児・医療的ケア児の保護者に対する支援④（メンタルヘルスを中心に）
12	養育者、保育者の不適切な関わりと施設内虐待
13	支援者の倫理と支援の視点
14	障害児・医療的ケア児の生活における「切れ目のない支援」とは
15	総まとめと確認テスト
16	

2019年度シラバス

科目名:乳児保育特論	担当者:青山　裕美	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
乳児保育の基本的理解を土台として、乳児保育の実践に必要な知識を深め、発達に沿った柔軟で具体的な保育内容を構成する力を養う。

授業の到達目標
・乳児期の発達の特徴を踏まえた乳児保育の重要性について理解を深める。
・様々な考え方や保育方法を知り、柔軟に判断する力を身に付ける。
・乳児保育を進める上で必要とされる環境を構成する力を身に付ける。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
乳児保育に関するニュースや記事等の情報に目を通すこと。

評価方法
授業への参加態度（30%）　提出物（30%）　レポート（40%）

教科書	参考図書
なし。適宜配布する。	保育所保育指針

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

01	乳児保育の現状と課題
02	乳児期の発達
03	乳児の生活　食事や排せつの援助
04	乳児の生活　着脱　お片付け
05	乳児の生活　生活リズムへの配慮
06	乳児のこころ　愛着形成
07	乳児のこころ　泣きの意味
08	乳児のこころ　困り行動の意味
09	乳児と遊び　周囲への目
10	乳児と遊び　やってみようとする気持ち
11	乳児と遊び　心を通い合わせる喜び
12	安全な乳児保育
13	保護者とのかかわりと連携
14	乳児保育のこれからを考える
15	まとめ　レポート
16	

2019年度シラバス

科目名:情報処理特演（情報処理演習）	担当者:上原　隆司	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
保育の現場やそれを取り巻く環境においても、情報技術の普及が著しい。この授業では保育の場面で有用となりうる情報処理の技術をピックアップし、それらを保育者となってから使いこなしていけるための基礎を演習を通して身につけることを目標とする。また、アンケート調査などで取ったデータを処理して学位論文をまとめ、発表していくための方法についても演習を通して学ぶ。

授業の到達目標
保育の場面で活用できる情報処理技術を身につける。学位論文の執筆と発表に際して、データを適切に処理し、求められる形で文書を作成し、内容を効果的に伝えるためのパソコンの使い方を身に付ける。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
これまでに学んできた情報リテラシーをあらかじめ復習しておいてから授業に臨むこと。習得したことを今後保育の場面で活かせるよう、機会を見つけて復習をすること。

評価方法
授業への参加態度 50%、課題レポート・制作物等 50%。

教科書	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
情報処理技術の習得には自らによる実践が不可欠である。グループでの作業にも積極的に参加すること。

01	ガイダンスと情報リテラシーの復習
02	表とグラフの作成
03	統計的処理の考え方と演習１
04	統計的処理の考え方と演習２
05	Wordの機能の復習と文書作成
06	論文作成のためのWordの機能の活用
07	プレゼンテーション演習１
08	プレゼンテーション演習２
09	静止画像を利用した Word の保育への応用
10	静止画像を利用した Excel の保育への応用
11	静止画像を利用した PowerPoint の保育への応用
12	パソコンを利用した制作1
13	パソコンを利用した制作2
14	パソコンを利用した制作3
15	パソコンを利用した制作4
16	なし

2019年度シラバス

科目名:子育て支援特演	担当者:吉見　昌弘	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　本授業は、国際的・地域的な問題解決能力を有する保育の専門家を目指すために、日本の子育て支援における現状とその支援のあり方について実例を挙げながら学んでいきます。特に、近年、日本の少子化に伴い、育児不安や親の育児負担が問題となっています。そのため、保育者や子育て支援者による、地域における子育て支援が重要な役割を果たしています。これらの子育て支援について、海外の保育、子育ても紹介しながら、多様な視点で捉えていきます。
　授業の方法は、授業毎に毎回、課題を提示し、ミニレポートを作成します。適宜グループ・ワークを実施し、意見交換をします。座席は指定し、授業の課題はmoodleなどのeラーニングを活用します。

授業の到達目標
１　国内及び国際的な視野をもって子育て中の家族を取り巻く社会状況を理解できる
２　少子化の問題やどのような子育て支援が必要であるか説明することができる
３　地域の子て支援活動について、支援する者の資質や具体的な支援方法を考えることができる

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修として事前に次に学ぶ教科書のページ及び参考資料を読んでおいて下さい（授業毎に１時間）。事後学修として教科書で学んだ事柄に関連する新聞記事や著書などを主体的に調べて授業での学びをさらに深めて下さい（授業毎に２時間）。なお、授業の最後に授業の内容をまとめた用紙を授業外の学修成果として提出してもらいます（約15時間）。

評価方法
受講態度や毎回の授業の課題等の提出物に加えて、予習復習の学修状況を60%、最後の確認テスト40%を目安として総合的に評価します。なお、授業回数の３分の２以上の出席者のみ評価対象とします。

教科書	参考図書
子育て支援論ワークブック（吉見昌弘、三恵社）	授業中に指示します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡、質問等があれば、授業毎に回収する課題（ミニレポート）に記入するかオフィスアワー（授業のある日のお昼休み）の時に来訪して下さい。連絡先は授業時に開示します。なお本授業では、指示しない限りスマホ、携帯電話の使用及び飲食を禁止します。

01	オリエンテーション（授業全体の流れ、授業の進め方やルールの説明）
02	日本で暮らす外国籍児童の諸問題
03	病児保育の実際
04	世界の子育て
05	日本の子育ての昔と今
06	父親の育児参加を進めよう
07	育児不安の原因と対応を考えてみよう
08	地域の子育て支援の取り組み
09	地域の子育て支援の拠点づくり
10	保育の仕事と潜在保育士
11	ストレスへの対応
12	カウンセリングの基本
13	ライフサイクルとネウボラ
14	カウンセリングの技法について
15	まとめと確認テスト
16	なし

科目名:学修総まとめの基礎Ⅰ	担当者:吉見　昌弘,小川　雄二,高田　吉朗,高須　裕美,平野　朋枝,小川　絢子,山下　直樹,太田　昌孝,小栁　雅子,上原　隆司,新沼　英明,髙橋　一郎,小島　千恵子	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習

免許･資格:	開講時期	前期
	配当学年	1
受講者制限:	単位数	2
	必須.選択	必須

授業概要と方法
　本授業は、保育と子育ての諸問題について、学修成果である論文を作成する過程を経て、保育と子育てに対して理論的・実践的に考究する能力を身につけることを目指します。実際の授業においては、個々の学生の研究テーマに応じて学修の成果を論文（中間報告含む）としてまとめる過程で、研究テーマの選定から研究目的、方法へと段階を踏みながら個別指導を展開します。なお、本授業では直接指導に加えて適宜、音声、動画を加えた多様なメディアを高度に利用し、授業の課題はmoodleを利用したeラーニングを活用します。

授業の到達目標
　以下の項目について学ぶことで、将来、保育者として身につける資質を育成することを目標とします。
1　学修成果である論文のテーマ探しを通して、保育・教育を研究する技能と能力を理解できる
2　文献や先行研究を調査することで、保育全般の課題や問題意識を理解できる
3　保育（教育）実習を通してその成果を記録、考察することで、実践的な課題を明確にできる

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修として、授業前に指導教員から与えられた課題をまとめ、報告できるように準備をすること（授業毎に２時間）。事後学修としては、指導を受けた後、指導の内容を論文に反映できるよう、自分なりに研究し、考察する過程を繰り返すこと（授業毎に２時間）。

評価方法
授業への参加・取組状況を50%、提出された課題、論文（中間報告書含む）の内容50%を目安に評価する。

教科書 授業時に指示します	参考図書 授業時に指示します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
この授業は、学生自身が主体的に課題に取り組むことが前提です。教員から指示されたことを守るのみでなく、自分から課題を見つけ、積極的に取り組むことを心がけ、質問等があればオフィスアワー（授業のある日のお昼休み）の時に来訪して下さい。連絡先は授業時に開示します。

01	年間の授業の流れの説明（オリエンテーション
02	論文のテーマ検討（１）学生からテーマ報告
03	論文のテーマ検討（２）テーマの修整
04	論文のテーマ検討（３）仮テーマ決定
05	研究計画の作成（１）前期計画
06	研究計画の作成（２）後期計画
07	先行研究・事例の収集（１）著書等
08	先行研究・事例の収集（２）紀要等
09	先行研究・事例の収集（３）報告書等
10	先行研究・事例の分析と検討（１）著書等
11	先行研究・事例の分析と検討（２）紀要等
12	先行研究・事例の分析と検討（３）報告書等
13	論文の構成（１）章立て作成
14	論文の構成（２）章立て再修正
15	論文の中間報告書作成・提出
16	なし
17	研究資料の収集（２）民間施設資料
18	研究資料の分析と検討（１）行政資料
19	研究資料の分析と検討（２）民間施設
20	事例研究・統計調査の方法（１）幼稚園
21	事例研究・統計調査の方法（２）保育所
22	事例研究・統計調査の方法（３）その他
23	実習における研究方法（１）指導案
24	実習における研究方法（２）環境構成
25	実習における研究方法（３）遊びの展開
26	論文の目的と再構成（１）全体の把握
27	論文の目的と再構成（２）全体の見直し
28	論文の目的と再構成（３）最終調整
29	論文の報告書作成・提出

30	総括（論文の報告書提出含む）
31	なし

科目名:学修総まとめの基礎Ⅱ	担当者:吉見　昌弘,小川　雄二,高田　吉朗,高須　裕美,平野　朋枝,小川　絢子,山下　直樹,太田　昌孝,小柳　雅子,上原　隆司,新沼　英明,髙橋　一郎,小島　千恵子	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
本授業は、学修総まとめの基礎Ⅰ（前期）を発展させたものである。保育と子育ての諸問題について、学修成果である論文を作成する過程を経て、保育と子育てに対して理論的・実践的に考究する能力を身につけることを目指します。実際の授業においては、個々の学生の研究テーマに応じて学修の成果を論文（中間報告含む）としてまとめる過程で、研究テーマの選定から研究目的、方法へと段階を踏みながら個別指導を展開します。なお、本授業では直接指導に加えて適宜、音声、動画を加えた多様なメディアを高度に利用し、授業の課題はmoodleを利用したeラーニングを活用します。

授業の到達目標
以下の項目について学ぶことで、将来、保育者として身につける資質を育成することを目標とします。
1　学修成果である論文のテーマ探しを通して、保育・教育を研究する技能と能力を理解できる
2　文献や先行研究を調査することで、保育全般の課題や問題意識を理解できる
3　保育（教育）実習を通してその成果を記録、考察することで、実践的な課題を明確にできる

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
準備学修として、授業前に指導教員から与えられた課題をまとめ、報告できるように準備をすること（授業毎に２時間）。事後学修としては、指導を受けた後、指導の内容を論文に反映できるよう、自分なりに研究し、考察する過程を繰り返すこと（授業毎に２時間）。

評価方法
授業への参加・取組状況を50%、提出された課題、論文（中間報告書含む）の内容50%を目安に評価する。

教科書 授業時に指示します	参考図書 授業時に指示します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
この授業は、学生自身が主体的に課題に取り組むことが前提です。教員から指示されたことを守るのみでなく、自分から課題を見つけ、積極的に取り組むことを心がけ、質問等があればオフィスアワー（授業のある日のお昼休み）の時に来訪して下さい。連絡先は授業時に開示します。

01	研究資料の収集（１）行政資料
02	研究資料の収集（２）民間施設資料
03	研究資料の分析と検討（１）行政資料
04	研究資料の分析と検討（２）民間施設
05	事例研究・統計調査の方法（１）幼稚園
06	事例研究・統計調査の方法（２）保育所
07	事例研究・統計調査の方法（３）その他
08	実習における研究方法（１）指導案
09	実習における研究方法（２）環境構成
10	実習における研究方法（３）遊びの展開
11	論文の目的と再構成（１）全体の把握
12	論文の目的と再構成（２）全体の見直し
13	論文の目的と再構成（３）最終調整
14	論文の報告書作成・提出
15	総括（論文の報告書提出含む）
16	なし

2019年度シラバス

科目名:文学の世界（文学）	担当者:太田　昌孝	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	選択

授業概要と方法
本講義は桜花学の「人間を知る」という群に配置された大学共通教養科目である。この群の内容は、芸術や文学、心理学、哲学を通じて人間や人間の心の諸相を把握するというものである。本講義では､前述の内容を踏まえ、主に宮沢賢治の作品分析及びその考え方、視点、生き様などを学ぶことにより、言語芸術の持つ特性について学修し、人間性を涵養する。

授業の到達目標
①保育者として不可欠な豊かな言語感覚と論理的思考力を身につける。②保育現場で教材として用いる童話の構成および特性について学ぶ

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
①　文学の基礎知識を習得する。②　小説や詩という文芸を学ぶことにより、言語感覚を錬磨し、作品鑑賞の力を習得する。

評価方法
講義に取り組む姿勢、ミニレポート・創作（不定期）、定期試験（レポート）によって評価する。

教科書	参考図書
プリントを用意します。	『宮沢賢治全集』筑摩書房

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
系統的な講義なので欠席をしないように。

01	講義概説（講義の目標とその概説）
02	宮沢賢治入門1（宮沢賢治の生涯）
03	宮沢賢治入門2（宮沢賢治と岩手）
04	作品鑑賞1（宮沢賢治の詩1）「雨ニモ負ケズ」
05	作品鑑賞2（宮沢賢治の詩2）「稲作挿話」
06	作品鑑賞3（宮沢賢治の詩3）「冬のスケッチ」
07	作品鑑賞4（宮沢賢治の詩4）「春と修羅」（序）
08	作品鑑賞5（宮沢賢治の詩5）「永訣の朝」
09	作品鑑賞6（宮沢賢治の詩6）「青森挽歌1」
10	作品鑑賞７（宮沢賢治の詩7）「青森挽歌2」
11	作品鑑賞8（宮沢賢治の童話1）「どんぐりと山猫」
12	作品鑑賞9（宮沢賢治の童話2）「虔十公園林」
13	作品鑑賞10（宮沢賢治の童話3）「ざしき童子の話」
14	作品鑑賞11（宮沢賢治の童話4）「セロ弾きのゴーシュ」①
15	作品鑑賞12（宮沢賢治の童話5）「セロ弾きのゴーシュ」②
16	なし

科目名:専攻科基礎演習Ⅰ	担当者:平野　朋枝,青山　裕美	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　ディプロマ・ポリシーに示されている豊かな問題発見・解決能力と高度の専門性の獲得を目指し、時事問題や保育・教育の現代的課題を取り上げ、情報収集・意見交換を通して自分なりの考えが持てるようにする。
　また、学外の施設を訪ねて（フィールドワーク）、歴史や文化など社会的な事象への関心を深め、それらと保育との繋がりについて考える。取り上げる課題や訪問施設、及び行動の計画を受講生全員で立案する中で、思考力、表現力、コミュニケーション能力、協調性などを涵養する。
　授業はゼミナール形式で行う。

授業の到達目標
　１．これまでの学修成果を客観的に評価し、課題を把握して学習計画を立てる。
　２．時事問題や保育・教育の課題について積極的に情報収集し、意見交換を行う。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修

評価方法
　自己の学習計画の立案と評価（30%）、レポート等の課題への取り組み（30%）、企画や意見交換への取り組み（40%）を総合的に評価する。欠席等の授業不参加については、総合点から減点する。

教科書	参考図書
特に指定しません。必要に応じて資料を配布する。	随時紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

01	オリエンテーション、学習計画
02	保育の現代的課題①
03	保育の現代的課題②
04	保育の現代的課題③
05	研究論文を作成するにあたって （中間発表を聴講して）
06	時事問題①
07	時事問題②
08	時事問題③
09	フィールドワークの計画と準備①
10	フィールドワークの計画と準備②
11	フィールドワーク①
12	フィールドワーク②
13	フィールドワーク③
14	フィールドワーク④
15	前期のまとめ、学習のふり返り
16	なし

2019年度シラバス

科目名:専攻科基礎演習 I	担当者:吉見　昌弘, 小野　克志	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	必須

授業概要と方法 留学タイプの本授業は、新しい教育課程に基づく2年次科目のため2019年度は非開講です。	
授業の到達目標	
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修	
評価方法	
教科書	参考図書
その他(学生へのアドバイス、連絡手段)	

01	
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2019年度シラバス

科目名:専攻科基礎演習Ⅱ	担当者:平野　朋枝, 青山　裕美	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	必須

授業概要と方法
　ディプロマ・ポリシーに示されている豊かな問題発見・解決能力と高度の専門性の獲得を目指し、時事問題や保育・教育の現代的課題を取り上げ、情報収集・意見交換を通して自分なりの考えが持てるようにする。
　また、学外の施設を訪ねて（フィールドワーク）、歴史や文化など社会的な事象への関心を深め、それらと保育との繋がりについて考える。取り上げる課題や訪問施設、及び行動の計画を受講生全員で立案する中で、思考力、表現力、コミュニケーション能力、協調性などを涵養する。
　授業はゼミナール形式で行う。

授業の到達目標
　１．これまでの学修成果を客観的に評価し、課題を把握して学習計画を立てる。
　２．時事問題や保育・教育の課題について積極的に情報収集し、意見交換を行う。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修

評価方法
　自己の学習計画の立案と評価（30%）、レポート等の課題への取り組み（30%）、企画や意見交換への取り組み（40%）を総合的に評価する。欠席等の授業不参加については、総合点から減点する。

教科書	参考図書
特に指定しません。必要に応じて資料を配布する。	随時紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

01	学習計画
02	保育の現代的課題④
03	保育の現代的課題⑤
04	保育の現代的課題⑥
05	保育の現代的課題⑦
06	フィールドワークの計画と準備③
07	フィールドワークの計画と準備④
08	フィールドワーク⑤
09	フィールドワーク⑥
10	フィールドワークのまとめ①
11	フィールドワークのまとめ②
12	保育・教育の分野に関するトピック　1
13	保育・教育の分野に関するトピック　2
14	保育・教育の分野に関するトピック　3
15	まとめ
16	なし

2019年度シラバス

科目名:専攻科基礎演習Ⅱ	担当者:吉見　昌弘,小野　克志	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法 留学タイプを対象とする本授業は、新しい教育課程に基づく2年次科目のため2019年度は非開講です。	
授業の到達目標	
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修	
評価方法	
教科書	参考図書
その他(学生へのアドバイス、連絡手段)	

01	
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2019年度シラバス

科目名:海外保育研修	担当者:髙橋一郎　小柳雅子	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	実習
免許･資格:		開講時期	通年
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	6
		必須.選択	選択

授業概要と方法
オーストラリアの教育提携校の保育コースで保育研修プログラムに参加することで、オーストラリアの保育士資格（Certificate III in Early Childhood Education and Care）の取得を目指す。渡航及び現地での生活に必要な事前学習、現地校での保育コースでの研修、帰国後の事後指導の３つを合わせて６単位を認定する。現地では、他国の学生たちと同じクラスでオーストラリアの保育を学び、資格の取得を目指していく。

授業の到達目標
オーストラリアの保育士資格取得に必要な所定の保育コースを履修していくことで、オーストラリアの保育に必要な知識、技術の習得することを目標とする。上記資格に加えて、First Aidなど付随する資格も取得するものとする

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
日本で学んだ保育の知識、技術を生かしながら、さらなる視野を広げる意味でもオーストラリアの保育について学びます。また日本とオーストラリアの保育の違いや共通点を意識することでさらに保育の専門性を高め、国際的な視野をもつことを目指します。

評価方法
事前指導の出席状況や学習成果20%現地校の担当者による評価（保育の課題、授業参加状況、態度など）60%事後指導として課される報告書20%なお保育コース中間時に担当教員による実習訪問指導を実施し、研修プログラムへの助言と補習を行う

教科書	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
この授業は、専攻科留学タイプを対象とした授業です。事前の留学指導教育を受けた上で、現地での保育コースでの研修に参加します。帰国後の専攻科の授業の中で、オーストラリアで学んだ保育の知識を生かすようにしましょう。

01	渡航前：オーストラリアへ留学するための事前指導が複数回行われ、留学への準備を進める 留学時：まず語学学校にて保育コース出席に十分となる所定の語学力を満たした上で、オーストラリアの専門学校の保育コースにて学ぶ。保育コースの専門学校にて、各ユニットごとに課された所定の課題をクリアすることでオーストラリアの保育士の資格取得と海外の保育に必要な知識や技術を習得する。 事後指導：帰国後に、現地での学習の再確認と振り返りのための報告書を提出する。また事後指導として渡航先での学びの状況を次年度に渡航する学生へ向け
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	
17	
18	
19	
20	
21	
22	
23	
24	
25	
26	
27	
28	
29	

30	
31	

科目名:保育特別実習	担当者:小島　千恵子, 青山　裕美, 小野　克志	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	実習
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	通年
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	6
		必須. 選択	必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】保育園長
専攻科における実習は、すでに資格や免許を取得した立場で保育実践を深め、保育の実践力を身につけるために行う。元園長の実務経験を踏まえ、学生にその専門性を深く伝授するようにし、学生それぞれが個別に実習課題を立てて臨み、理論と実践の統合に向け、自主的かつ積極的に取り組むようにする。また、学位論文作成のためのフィールドワークとしても活用できるようにし、保育現場に出てからも保育実践研究が継続ができるようにする。

授業の到達目標
実習課題や実習において生じた問題と向き合い、積極的に指導を受けながら実践的に学びを深めるようにする。長期の実習を通して、保育者の専門性を深め、保育に対する研究の目を養うようにする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
実習に当たっては、事前に現場に役立つ保育技術や教材を研究しておくこと。実習の記録は独自の工夫で、子どもを理解すること、環境の構成について、保育者の動きや子どもとのかかわりなど、きめ細かな記録が取れるように努力すること。

評価方法
実習の記録　100%

教科書	参考図書
特になし	特になし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
自分の目的に沿って積極的に実習に取り組むこと。

01	自身の研究テーマ及び研究の目的に沿って自ら選んだ実習先で週2日間の実習を行い、子どもの姿や保育者の姿をよく観察して、自分が保育者になることを自覚しながら、実践的に実習する。子どもと積極的にかかわり、子ども理解を深めること、保育者の仕事内容や役割について理解し、自らも資格や免許を持っている立場で、様々な角度から保育を考えていけるようにする。また、仕事として保育を行うことについて、深く理解し、自分がどのような保育がしたいのか、保育観を磨き、一歩踏み込んだ子どもとのかかわりから、子どもへの理解も深めていくことが
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	
17	
18	
19	
20	
21	
22	
23	
24	
25	
26	
27	
28	
29	
30	

31	

2019年度シラバス

科目名:保育特別実習指導	担当者:髙橋一郎　小野克志	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	必須

授業概要と方法
専攻科の実習は、有資格者としての自覚を持ち、より主体的、実践的、専門的な課題をもって望む必要がある。自己の実習の記録などをもとに、課題を持ち、個人発表、集団討論などを通して、専門家としての力量を高めるようにする。また力量をアップするための教材研究を計画的に取り組む。

授業の到達目標
海外での実習という異文化の環境の中での保育実習のあり方をしっかりとらえることを目標とする。具体的には現地保育所事情、オーストラリアで実習を行うに当たっての準備、多文化主義のオーストラリアの文化的歴史的背景の知識を習得する。これらを学んだ上で現地実習を行い、保育者としての力量をアップさせる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
実習における服装規程など、オーストラリアでの実習についての予備知識をしっかりと得ておく

評価方法
　出発前授業、現地授業、帰国後授業と行います。　それぞれにおける授業への参加姿勢40%　授業内レポート30%　帰国後提出のレポート30%

教科書	参考図書
なし	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
オーストラリア事情について様々な角度から自身で積極的に知識を得る努力をしてください

01	オーストラリアにおける実習の意義　ブルーカードの申請と取得
02	実習園への事前訪問と確定及び実習方法の検討
03	実習における長期計画の立案と共通課題の整理および自主研究課題の設定
04	オーストラリアにおける文化多元主義とは何か～保育現場との関係
05	先住民とオーストラリア～多文化主義に至った背景１
06	先住民とオーストラリア～多文化主義に至った背景２
07	子どもの遊びから幼児理解を深める　子どもの使う言語を考える
08	実習園での子どもの姿の報告　実習開始に当たっての問題点
09	保育現場の日豪比較～環境構成の比較
10	教材研究　　保育実践記録の取り方
11	環境構成の在り方：実習園の環境構成から
12	保護者との提携・子育て支援のあり方を調べる 保護者との提携・子育て支援のあり方を調べる 保護者との提携・子育て支援のあり方を調べる保護者との提携・子育て支援のあり方を調べる 12 保護者との提携・子育て支援のあり方を調べる 12 保護者との提携・子育て支援のあり方を調べる 12 保護者との提携・子育て支援のあり方を調べる 12 保護者との提携・子育て支援のあり方を調べる 保護者との提携・子育て支援のあり方を調べる
13	実習記録の報告・問題点の討議
14	教材研究の報告
15	実習記録のまとめと報告
16	

科目名:保育特別実習指導	担当者:小島　千恵子, 青山　裕美, 小野　克志	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】保育園長
　専攻科の実習は、有資格者としての自覚を持ち、より主体的に、実践的かつ専門的な課題をもって臨む必要がある。元園長の実務経験を踏まえて、保育の記録や省察の重要性を学生に保育の実例を取り上げながら教授し、学生が自己の実習記録などを基に課題を持ちながら、専門性を高めていけるような実習ができるようにする。実習において観察した子どもの姿や、実践記録を発表して集団で討論したり、事例検討などを通して、保育の専門性や力量を向上させていくようにする。常に自分の保育と向き合って、省察して次に生かす姿勢を持つことができるようにする。

授業の到達目標
　実習における実践的かつ専門的な課題に対して、主体的に取り組み、保育への対応力が持てるようにする。また、実習における記録などを基に、実践について発表し、討論などを通して、保育観を磨き保育者像を確立していくようにする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　週2日間の実習を無駄にしないように、実習の実践記録などを整理し、その記録から課題や問題を見つけ出すなど、保育に向き合う姿勢を常に持っているように心がけること。実習で見つけた問題課題については、その解決策を積極的に探るようにすること。わからないときは、実習先の指導者に質問するなど、前向きに取り組むようにする。

評価方法
実践についての討論への参加の様子と発表　60%　授業中の課題・実習の振り返り　40%

教科書	参考図書
特になし	適宜紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
保育科の実習ではないことを十分に理解して実習に取り組み、オリジナルな記録が残せるように工夫してください。

01	実習における自己研究課題の設定
02	実習園での実習の仕方についての検討
03	子ども理解の理論と方法
04	子ども理解の理論と方法
05	実習園における子どもの姿についての報告及び情報交換と事例検討①
06	実習園における子どもの姿についての報告及び情報交換と事例検討②
07	実習園における子どもの姿についての報告及び情報交換と事例検討③
08	子どもの遊び　主体的に遊ぶとは
09	子どもの遊びの変遷
10	エピソード記述の意義と記述の方法
11	エピソード記述のまとめ方と活用方法
12	子どもが主体的に遊ぶための環境づくり①
13	子どもが主体的に遊ぶための環境づくり②
14	実習における記録と実践
15	まとめ　実習の記録を研究に活かす
16	

2019年度シラバス

科目名:環境の科学	担当者:辻　広志	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	選択

授業概要と方法 この授業では、様々な生態系における環境問題と生物の保全対策について学び、ヒトと自然の共生のあり方について考える。配布プリントによる講義を中心に、視聴覚教材、現物資料の提示、実習、新聞記事、インターネット等を通して、自然環境や野生生物に対する理解を深める。
授業の到達目標 地球環境、生物多様性、生態系のしくみについて理解し、環境保全活動の実践方法を知る。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 自宅周辺にはどのような動植物が生息しているか調べる。環境問題や野生生物に関する最新の情報を、新聞、雑誌、テレビ、インターネット等で入手する。
評価方法 レポート点50%、平常点50%（出席状況、授業感想文、授業への取り組み姿勢）で総合評価する。

教科書	参考図書
使用しない	授業中に適宜紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 「エコ検定」等の環境に関する資格検定取得を目指す学生は是非受講してください。質問等がある場合は、研究管理棟２Ｆの218研究室に来てください。

01	イントロダクション：環境問題と私たちの暮らし
02	生物多様性の危機の現状：世界のカエル類の約３割は絶滅の危機に瀕している！
03	生態系のしくみ：オオカミが自然を守っている？
04	植物の種子散布：身近な雑草の繁殖戦略
05	野外実習1：キャンパスの樹木観察
06	侵略的外来種：アカミミガメ、ブラックバス、アライグマが日本の生態系を破壊する
07	環境変動による環境負荷：地球温暖化が生物に及ぼす影響
08	有害化学物質による環境汚染：「沈黙の春」と「メス化する自然」
09	生態系の保全：世界自然遺産の光と影
10	希少種の保全：レッドデータブックで絶滅危惧生物を調べよう
11	企業・市民による環境保全活動：企業の環境報告書を読もう
12	自然再生事業：「ビオトープ」は生物の避難場所
13	女子学生の自然体験：身近な生き物アンケート
14	野外実習2：キャンパスの五感マップ作り
15	まとめと確認
16	なし

2019年度シラバス

科目名:海外英語研修	担当者:髙橋一郎　小柳雅子	開講学科等	専攻科保育専攻
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	4
		必須.選択	選択

授業概要と方法 教育提携校（オーストラリア）における語学コースで15週間の英語研修プログラムに参加することを基本として、日常の英会話の基本及びコミュニケーション力、異文化理解の能力などを総合的に向上させる。渡航当初はホームステイを必須とし、現地生活への適応能力を高めるものとする。語学コースでは保育に関する関連用語についても学び、語学コース修了後の保育コースでの学びと実習に備える。
授業の到達目標 実践的な英語を学び、保育者として英語で対応できる語学力を身につけることを目標とする。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 日頃から英語の基本的な技能であるリスニング、スピーキング、ライティング、リーディングを高める努力をすること。また、日本の文化や社会を他国の人へ伝えるような知識の修得にも努めること
評価方法 事前指導20%　　現地校による評価（英語力テスト・授業参加状況と受講姿勢の評価）50%現地語学コース参加中の報告レポート30%

教科書	参考図書
なし	Nichigo Press

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) この授業は、専攻科保育専攻の留学タイプを対象とした授業です。事前の留学指導をきちんと受けた上で、現地で語学能力の向上に努めることを求めます。

01	渡航前：（4～5月） オーストラリアへ留学するための事前指導が行われ、研修先の特徴や留学費用、ホームステイ先の選定などの情報を提供する。その過程において保護者参加可能の会も設けて留学への理解を深める。
02	オーストラリアでの語学研修：（5～8月） 語学能力に応じて段階別のクラスが編成され、他国の学生たちと触れ合いながら学習していく。 授業後は近隣の公立図書館などで自習をしながら自らの語学力を高めていく。
03	報告レポート提出：（5～8月） 現地での留学状況をレポートの形で隔週提出する。
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	